ロジスティクス環境会議
第２回企画運営委員会

2004 年 1 月 9 日(金)15:00～17:00
(社)日本ロジスティクスシステム協会　会議室

次　　第

１．開　会

２．ロジスティクス環境会議設立総会後の経過報告

３．議　事
１）第１期(2003 年 11 月～2006 年 3 月)の目標設定の具体化について
２）企画運営委員会の組織構成と役割分担について
３）問題抽出アンケート結果について
４）各委員会の今後の進め方について
(1)環境会議のアウトプットを通じた JILS 事業企画の構想
(2)各委員会正副委員長ミーティングによる検討結果の報告
５）その他

４．閉　会

【配布資料】
資料１　　：ロジスティクス環境会議設立後の経過報告
資料２　　：ロジスティクス環境会議(第１期)の目標設定の具体化（案）
資料３－１：企画運営委員会の機能分割と構成（案）
資料３－２：企画運営委員会　正副委員長ミーティング　メンバー一覧
資料３－２：企画運営委員会　広報・普及委員会メンバー一覧（案）
資料３－３：関係団体会議　メンバー候補（案）
資料４　　：問題抽出アンケート結果の概要
資料５－１：各委員会　今後の進め方
～５－６
資料５－６：各委員会の共通課題

以　上

資料１

ロジスティクス環境会議設立後の経過報告

１．ロジスティクス環境会議の設立
1)開催日時：２００３年１１月１３日（木）15:00～16:30
2)会　　場：東京プリンスホテル　２Ｆマグノリアホール

２．第１回企画運営委員会の開催
1)開催日時：２００３年１１月１３日（木）17:00～18:00
2)会　　場：東京プリンスホテル　１１Ｆ　高砂

３．各委員会の正副委員長による、委員会の進め方の検討

１）環境パフォーマンス評価手法検討委員会
(1)開催日時：２００３年１２月４日(木)10:00～12:00
(2)会　　場：ＪＩＬＳ会議室

２）源流管理による環境改善委員会
(1)開催日時：２００３年１２月　３日(水)15:00～17:00(第１回)
２００３年１２月２４日(水)15:00～17:00(第２回)
(2)会　　場：ＪＩＬＳ会議室

３）省資源ロジスティクス推進委員会
1)開催日時：２００３年１２月４日(木)16:00～18:00
2)会　　場：ＪＩＬＳ会議室

４）リバースロジスティクス調査委員会
1)開催日時：２００３年１２月３日(水)17:00～19:00
2)会　　場：ＪＩＬＳ会議室

５）共通基盤整備委員会
1)開催日時：２００３年１１月２８日(金)10:00～12:00（第１回）
２００３年１２月２５日(木)15:00～17:00（第２回）
2)会　　場：ＪＩＬＳ会議室

以　上

資料２

第１期(2003年11月～2006年3月)に合意形成したい内容（例）

１．方針

環境と調和したロジスティクス方針・活動を通じて循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取組む企業を増やす、という目標に基づき、知識ベースの情報共有を図りながら合意形成を行う。

２．各会合の進め方の留意点

1)メンバー間の問題点の共有と課題の整理

2)検討すべき範囲、視点、深さ(経営レベル、現場レベル等)の検討および合意形成

※合意形成の方法等についても検討が必要

３．アウトプット（成果）について

1)各委員会活動によるアウトプット(用語集、ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ、ﾏﾆｭｱﾙ、事例集等)の創出と共有

2)合意形成による複数企業間、業際間の環境活動の活性化

3)目標設定とその達成によるメンバー企業、自治体等の評価の向上

4)複数企業間、業際間の環境活動に関する知識ベースの情報共有

5)その他

４．目標設定の具体化について

メンバーの自主的な活動による環境負荷低減を促進し、環境活動を活性化すると共に、各関係者にロジスティクス環境会議における活動の意義や成果をアピールするため、ロジスティクスに関わる環境活動の対象領域と環境負荷を可能な範囲で具体的に定量化する。

1)参加メンバー各社における環境活動の現状調査と目標設定

(1) LEMS導入マニュアルに基づく現状調査

①方針の設定について

※全社的な環境方針の策定や環境報告書の発行および物流関係の記載内容等

②各物流施策の活動(マニュアル各項目に対する取組み)について

③社内体制(社内横断的な環境委員会の設置等)について

※LEMS導入マニュアルにはないため、項目の追加を検討

(2)上記マニュアルの取組み状況に基づく目標設定と成果の向上

(3)環境活動のレベルについて

環境パフォーマンス指標、評価基準、評価方法等が整備された後に具体的な目標値の設定を行い、環境活動のレベルの向上を目指す。

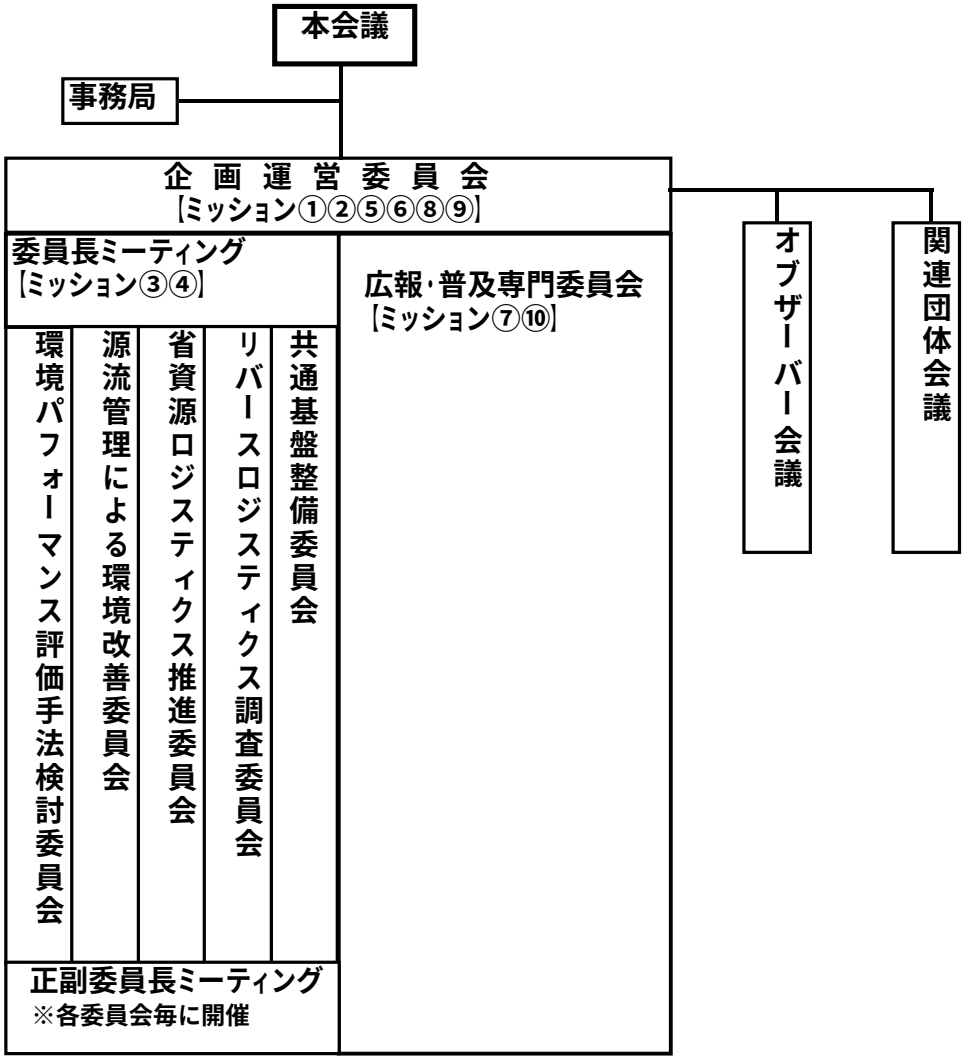
以　上

資料３－１

企画運営委員会の組織構成と役割分担（案）修正版

企画運営委員会を有機的に機能するものとするため、委員会機能を以下のとおり組織構成し、各メンバーの役割を明確にする。

１．組織構成と企画運営委員会のミッション、役割分担



２．企画運営委員会のミッションの確認

１）ロジスティクス環境会議全体の活動における基本方針案の策定と本会議への提案

２）ロジスティクス環境会議（本会議）において合意された基本方針に基づく活動方針の策定および決定

３）活動方針に基づく各委員会の目標設定と活動の計画および調整

４）各委員会の取組み状況と目標に対する達成状況の把握

５）各委員会の活動の積極的な支援ならびに委員会として組織化されていない重要テーマに関する実態調査等の企画および実施と組織化の検討および推進

６）各委員会でまとめられた提案(提言案)の取りまとめと関係者への提言活動の実施

７）広報・普及啓発活動の企画

８）オブザーバー会議の企画および実施

９）各関連団体との会議の企画、実施と各関係団体との連携による活動の効率化の推進

10）環境負荷低減に寄与する技術開発動向の把握と啓発活動、検証による要望の検討および整理と関係者への提案活動の実施

３．各会合のミッション

１）委員長ミーティング

(1)委員会間のテーマ、内容、進捗の確認および調整

２）広報・普及専門委員会

(1)メンバー間コミュニケーション活動(フォーラム、シンポジュウム等)の企画と推進
※共通基盤整備委員会との連携

(2)各委員会のアウトプット等の普及啓発

(3)電子メール、紙媒体(各種情報を掲載したジャーナル等)による情報発信内容の企画と推進
※共通基盤整備委員会との連携

(4)新規メンバー参加対策の企画と推進

３）オブザーバー会議

(1)省庁間の連携推進

(2)情報交換と関係省庁に対する提言の実施

※具体的な内容は、各委員会において問題点や課題が具体化した際に検討

４）関連団体会議

(1)関係団体の連携推進

(2)情報交換と関係団体に対する提言の実施

※具体的な内容は、各委員会において問題点や課題が具体化した際に検討

以　上

資料３－２

企画運営委員会　正副委員長ミーティング　メンバー一覧

(敬称略)

１．環境パフォーマンス評価手法検討委員会

委 員 長：増井　忠幸　武蔵工業大学　環境情報学部 教授

副委員長：小林だいご　鹿島建設㈱　　エンジニアリング本部　生産・物流グループ　課長

副委員長：飯島　康司　三菱電機(株)　ロジスティクス部 企画グループ 専任

２．源流管理による環境改善委員会

委 員 長：小西　俊次　トヨタ自動車㈱　物流企画部 主査

副委員長：成澤　淳一　サッポロビール㈱　執行役員　ビール事業部

サプライチェーンマネジメント部　部長

副委員長：納富　　信　早稲田大学　環境総合研究センター　客員助教授

３．省資源ロジスティクス推進委員会

委 員 長：山本　明弘　㈱日通総合研究所　物流技術環境部 環境ｸﾞﾙｰﾌﾟ 担当部長

副委員長：魚住　和宏　味の素㈱　調味料･食品ｶﾝﾊﾟﾆｰ ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ戦略本部 物流企画部 企画ｸﾞﾙｰﾌﾟ長

副委員長：軽部 熊次郎 (株)日立物流 ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽｿﾘｭｰｼｮﾝ統括本部 ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ開発本部 環境ﾘｻｲｸﾙ部 部長

４．リバースロジスティクス調査委員会

委 員 長：菅田　　勝　リコーロジスティクス㈱　業務改革本部 副本部長

副委員長：麦田　耕治　日本通運㈱　　環境部　環境施策専任部長

副委員長：新村　弘之　富士通㈱　ものづくり推進本部　物流企画部　計画部長

５．共通基盤整備委員会

委 員 長：津久井英喜　諏訪東京理科大学　経営情報学科 教授

副委員長：堀口　英雄　東芝物流㈱　物流技術部 物流技術担当(環境保全) 課長

副委員長：下村　博史　㈱日本総合研究所 研究事業本部 上席主任研究員

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ：鈴木　邦成　文化女子大学　講師

以　上

企画運営委員会　広報・普及専門委員会
メンバー一覧（案）

(敬称略)

１．委 員 長	小西　俊次	トヨタ自動車㈱	物流企画部 主査
２．副委員長	黒坂　真一	㈱ヤマタネ	情報営業部 課長
３．　〃	中島　敏洋	新日本製鐵㈱	営業統括部 部長（物流技術企画）
４．委　　員	竹原　　郁	いすゞ自動車㈱	法人営業部 業界担当 担当部長
５．　〃	加藤　義雄	㈱イトーヨーカ堂	物流部 総括マネジャー
６．　〃	眞鍋　大輔	NECロジスティクス㈱	環境管理室長
７．　〃	宮村　隆二	日本ロジテム㈱	執行役員 業務部長
８．　〃	野村　久則	㈱菱食	ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ本部 ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ統括部 ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ・ｺﾝﾄﾛｰﾙﾁｰﾑ 主事

以　上

資料３－３

関連団体会議　メンバー候補

	団体名	URL
1	(社)経済団体連合会	http://www.keidanren.or.jp/indexj.html
2	日本商工会議所	http://www.jcci.or.jp/
3	(社) 全日本トラック協会	http://www.jta.or.jp/
4	(社) 日本倉庫協会	http://www.nissokyo.or.jp/kyokai_gaiyo/index.html
5	(社) 日本物流団体連合会	http://www.transport.or.jp/jffi/
6	(社)日本包装技術協会	http://www.jpi.or.jp/
7	(財) 流通システム開発センター	http://www.dsri-dcc.jp/
8	(財) 日本容器包装リサイクル協会	http://www.jcpra.or.jp/
9	(財)家電製品協会	http://www.aeha.or.jp/
10	(社) 日本建設業団体連合会	http://www.nikkenren.com/
11	(社)日本自動車工業会	http://www.jama.or.jp/
12	日本チェーンストア協会	http://www.jcsa.gr.jp/index 1.htm
13	日本百貨店協会	http://www.depart.or.jp/
14	交通エコロジーモビリティ財団(グリーン経営)	http://www.ecomo.or.jp/
15	(社) 全国環境保全推進連合会(エコアクション21)	http://www.napec.or.jp/profile/index.html
16	(財)クリーン・ジャパン・センター	http://www.cjc.or.jp/
17	(社)産業環境管理協会	http://www.jemai.or.jp/index-j.asp
18	(社)産業と環境の会	http://www.pc-room.co.jp/sankan/
19	(社) 全国産業廃棄物連合会	http://www.zensanpairen.or.jp
20	(財) 日本環境協会	http://www.jeas.or.jp/
21	中小企業総合事業団	http://www.jasmec.go.jp
22	主婦連合会	http://www.shufuren.gr.jp/
23	(財)日本消費者協会	http://www1.sphere.ne.jp/jca-home/
24	(社)日本能率協会	http://www.jma.or.jp/index.html
25	(財)社会経済生産性本部	http://www.jpc-sed.or.jp/

以　上

資料４

問題抽出アンケート結果の概要

１．回答数　58 社／110 社
　　回答率　52.7%

２．具体的意見の該当する委員会
　１）環境パフォーマンス評価手法検討委員会
　　7 件／95 件(7%)
　２）源流管理による環境改善委員会
　　17 件／95 件(18%)
　３）省資源ロジスティクス推進委員会
　　48 件／95 件(51%)
　４）リバースロジスティクス調査委員会
　　10 件／95 件(11%)
　５）共通基盤整備委員会
　　10 件／95 件(11%)
　６）その他
　　2 件／95 件(2%)

３．各委員会に属する主な問題点

1)　環境パフォーマンス評価手法検討委員会
(1)算出の根拠と方法、評価が不明瞭
(2)企業間の比較が難しい。

2) 源流管理による環境改善委員会
(1)生販各部門・各関連企業の業務プロセスが統合されていないため、物流が非効率。
(2)部門間、事業部間で生産方式や顧客サービスレベルが異なるため、物流統合が難しく、環境及びコスト面で非効率。
(3)ロジスティクス全般でのトータルコスト削減・物流品質維持と製造部門における包装（梱包）費削減。

3)省資源ロジスティクス推進委員会
(1)発注企業と受注企業間の商慣行、取引条件(物流サービス)
　①梱包仕様
　②リードタイム
　③発注ロット
　④コスト負担
(2)物流インフラ
　①各モードの整備
　※貨物ダイヤ、船の出港時間と航行速度
　②共同物流を円滑にする情報基盤
(3)法規制
　①業界共同化を阻害する「独占禁止法」の弊害

4) リバースロジスティクス調査委員会
(1) 自治体等の許認可制度
(2)省庁連携
(3)サービスレベル（時間指定等、商慣行）
(4)情報共有
・リサイクル等の処理業者等
・共同化のための物流情報
・業界横断的なリサイクルシステム

5)共通基盤整備委員会
(1)許可制度、諸規制
(2)業界としての貨物情報等の情報共有

以　上

資料５－１

環境パフォーマンス評価手法検討委員会

今後の進め方（案）

正副委員長ミーティングによる議論を踏まえ、今後の進め方に関する内容を検討した。

１．正副委員長ミーティングによる主な検討内容と課題の整理

1)開催日時：２００３年１２月４日(木)10:00～12:00

2)会　　場：ＪＩＬＳ会議室

3)メンバー：委員長　：武蔵工業大学　　増井　忠幸　　(敬称略)

副委員長：鹿島建設(株)　　小林　だいご

〃　　：三菱電機(株)　　飯島　康司

4)議　　事：(1)問題抽出アンケート結果について

(2)活動の方針・目標・計画について

(3)今後のスケジュールについて

(4)その他

5)主な検討内容と課題

(1) 本委員会に関する検討内容と課題

①各委員会の結果を待たず、本委員会とし取組めるところから着手すべきではないか。

②ＬＥＭＳでは活動レベルの調査は行っているが、経営的な視点からのアプローチも必要であり、今あるデータから経営指標にリンクさせ、企業評価の基準づくりが必要である。

③パフォーマンス評価を行う際、その範囲の設定や企業間の按分が難しいため、拠り所になるモデルを作成したい。

④ＬＥＭＳでも問題点として挙げられている、原単位が省庁間で異なることが問題である。統一したものが必要ではないか。また、原単位は技術革新によって変化するため、維持、管理が不可欠であり、JILS 総研で行うべきではないか。

⇒環境省にて、メンテナンスは実施

⑤評価項目（評価指標）をどうするかが問題である。資源の枯渇や廃棄場枯渇のため、廃棄物低減の方向に導くためにも、指標がＣＯ２だけで良いかのか議論が必要である。

⑥委員会の人数も多い為、委員会の運営としては、１０～１５名規模で２つの分科会を構成することも必要ではないか。但し、分科会のテーマ、切り口を改めて検討する。

(2) 各委員会にも関連する検討内容と課題

①委員会の中で具体的な議論進めるに当たり、物流活動の業務モデル図が必要であり、各委員会でも共通のツールになるので作成するべきである。

②環境報告書におけるロジスティクスの項目が不明確である。経営におけるロジスティクスの位置付けが低く見られるため、ロジスティクスの役割が正しく伝わるフォーマットを関係者に提示するべきである。

２．今後の委員会の進め方について

1)方針

物流活動の環境パフォーマンスに対する基本的な合意形成と複数企業間、業際間にわたる環境パフォーマンスの検証および基本的な合意形成を行う。また、物流活動の環境パフォーマンスと経営指標との関係を明らかにし、その重要性を啓発、普及することによって、関係者の環境活動を支援する。

2)アウトプットイメージ

(1)環境パフォーマンスに対する基本的合意形成

(2)複数企業間、業際間の環境パフォーマンス表記方法、評価方法の検証、合意形成

＊評価の項目(インデックス)と重み付けの検証

(3)物流活動と経営指標との関連性の研究と利用例の提示

＊各委員会で作成される、マニュアル(項目)との連動

(4)環境報告書の環境パフォーマンスの表記方法や評価方法の提示

*環境パフォーマンスの表記および評価を記載している企業数の調査

*他社と連携(共同物流等)している場合の表記および評価を記載している企業数の調査

(5)提言

①行政　②産業界　③消費者　④その他

※各委員会の提言内容は、企画運営委員会にて集約し、まとめる。

(5)その他

3)目標

(1)環境パフォーマンスに対する基本的合意形成・・・２００４年９月

(2)複数企業間、業際間の環境パフォーマンス評価モデルの検証、合意形成・２００５年３月

(3)物流活動と経営指標との関連性の研究と利用例の提示・・・２００５年７月

(4)環境報告書の環境パフォーマンスの表記方法や評価方法の提示・・・２００５年１０月

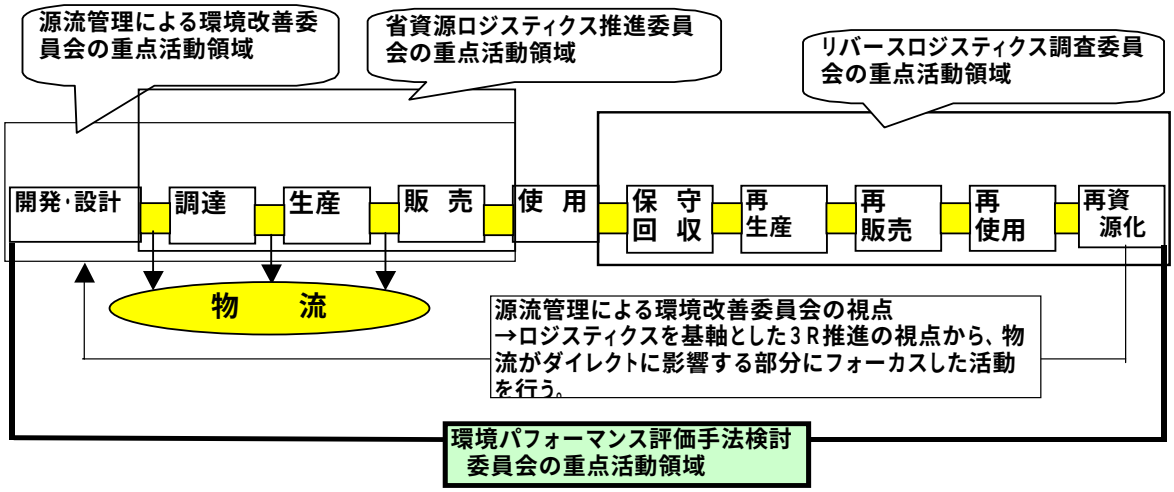
(5)提言・・・２００５年１２月

4)活動のステップ

(1)メンバー間の問題点・課題の共有

※問題抽出アンケート結果

(2) 目標検討および合意形成



5)スケジュール

	2003年			2004年		
	11月	12月	1月	2月	3月	4月
１．本会議	第1回 11/13					第2回 4/下旬
２．企画運営委員会	第1回 11/13		第2回 1/9(金) 15-17			
３．正副委員長ミーティング		第1回 12/4(木) 10-12				
４．環境パフォーマンス 評価手法検討委員会			第1回 1/23(金) 14-17時	第2回 2/中旬	第3回 3/中旬	
1)方針・目標・活動計画			←→			
2)LEMS導入マニュアルの実施 (未実施企業)	※2004年度				→	→
3)環境パフォーマンスの検証	※2004～2005年度					→
4)経営指標との関係性の検証	※2004～2005年度					
5)複数企業、業際間の検証	※2004～2005年度					
6)環境報告書の表記方法や評価方法	※2004～2005年度					

以　上

資料５－２

源流管理による環境改善委員会

今後の進め方（案）

正副委員長ミーティングによる議論を踏まえ、今後の進め方に関する内容を検討した。

１．正副委員長ミーティングによる主な検討内容と課題の整理

1)開催日時：２００３年１２月　３日(水)15:00～17:00(第１回)
　　〃　　１２月２４日(水)15:00～17:00(第２回)

2)会　　場：ＪＩＬＳ会議室

3)メンバー：委員長　：トヨタ自動車(株)　　小西　俊次　　(敬称略)
　　副委員長：サッポロビール(株)　成澤　淳一
　　〃　　：早稲田大学　　納富　信
　　オブザーバー：鈴与㈱　　野々村　岳至
　　三井倉庫㈱　中谷　幸裕
　　※物流企業からの意見も反映させるため、第２回目のミーティングには鈴与㈱、三井倉庫㈱の上記２名にオブザーバーとして参加いただいた。

4)議　　事：(1)問題抽出アンケート結果について
　　(2)活動の方針・目標・計画について
　　(3)今後のスケジュールについて
　　(4)その他

5)主な検討内容と課題

(1)本委員会に関する検討内容と課題

①本来の源流管理の範囲は広範であり、現在の各企業および物流部門の置かれている状況下での取組みは難しいため、本委員会では、物流が直接的に影響する部分にフォーカスをあてた活動を行いたい。物流部門、物流企業がやるべき事、京都議定書や各規制等に対し守るべきことを明確にしたうえで、設計、開発等の他部門に物流の観点から提案を行いたい。

②荷主企業、物流企業の各主体がやるべきことを明確にし、広く成果をアピールしたい。

③アウトプットを広く公開することは、ロジスティクス関係者全体のレベルアップに繋がり、大切なことである。また、アウトプットもある程度のレベルになった段階で各委員会のメンバーにも公開し、ブラッシュアップを図りたい。

④源流管理の範囲は、販売まで入れるべきである。本委員会は個別企業主体の活動であり、省資源ロジスティクス推進委員会は、企業間の物流活動に重点置くべきである。

⑤本委員会で言う「マニュアル」は、業務マニュアルではなく、荷主企業の物流部門、また各物流企業が管理すべきビューポイントを提示するべきである。

⑥委員会の人数も多い為、委員会の運営としては、２つの分科会を構成することも必要ではないか。但し、分科会のテーマ、切り口を改めて検討する必要がある。

(2)各委員会にも関連する検討内容と課題

①物流マップ（モデル図）があると、議論する際に焦点が明確になるため、作成したい。

②各委員会の活動が見えるような仕組みが必要であり、委員会横断的な意見交換等ができる環境が必要である。

２．今後の委員会の進め方について

1)方針

循環型社会に対応する企業の社会的責任として、企業間に渡るロジスティクスの視点から荷主企業の物流、ロジスティクス、ＳＣＭ部門、物流企業として実施すべき事項の視点を明らかにする。また成果はマニュアル形式にまとめ、広く公開し、関係者の環境活動を支援する。

※マニュアル：業務マニュアルではなく、管理すべきビューポイント

2)アウトプットイメージ

(1)マニュアルの作成

①各企業がやるべきこと

②各企業が守るべきこと

③物流としてフォローすべきこと(項目)

④方法論

(2) 提言の作成

①行政　②産業界　③消費者　④その他

※各委員会の提言内容は、企画運営委員会にて集約し、まとめる。

(3)その他

3)目標

(1)マニュアル

第１次アウトプット・・・２００４年　９月

第２次アウトプット・・・２００５年　３月

※第１次アウトプットで他委員会の意見を反映し、ブラッシュアップする。

(2)提　言・・・・・・・・・・２００５年１２月

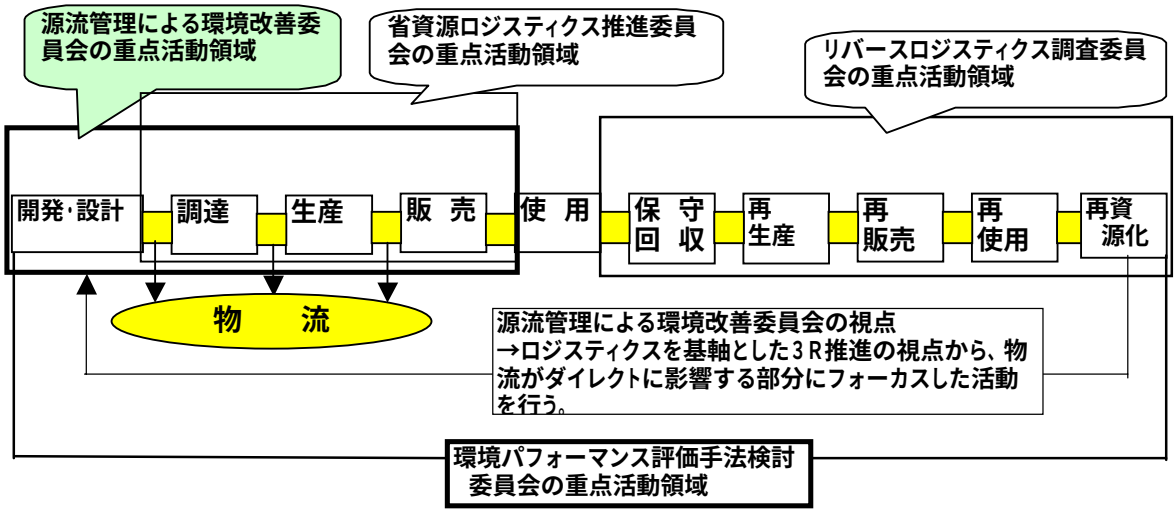
4)活動のステップ

(1)メンバー間の問題点・課題の共有

※問題抽出アンケート結果

(2)源流管理の定義、源流管理による環境改善委員会の活動範囲の検討および合意形成

(3) 目標検討および合意形成



(1)定義

企業の社会的責任として、商品・サービスのライフサイクル全体にわたって環境負荷を低減するため、ロジスティクスの視点から、リデュース(発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再生利用)の実現を目指し、製品や荷姿の設計、物流プロセスを構築すること。

(2)検討範囲

個別企業主体（荷主企業・物流企業）

※本委員会における省資源ロジスティクス推進委員会との棲み分け

源流管理による環境改善委員会・・・・・個別企業主体(荷主企業・物流企業)の活動

省資源ロジスティクス推進委員会・・・・複数企業間、業際間主体の活動

3)活動テーマの検討と合意形成

※アウトプットイメージの具体化

５．スケジュール

	2003年			2004年		
	11月	12月	1月	2月	3月	4月
１．本会議	第1回 11/13					第2回 4/下旬
２．企画運営委員会	第1回 11/13		第2回 1/9(金) 15-17			
３．正副委員長ミーティング		第1回12/3(水)10-12時 第2回12/24(金)15-17時				
４．源流管理による 環境改善委員会			第1回 1/22(木) 14-17時	第2回 2/中旬	第3回 3/中旬	
①方針・目標・活動計画			←→			
②マニュアル作成	※2004～2005年度				→	→

以　上

資料５－３

省資源ロジスティクス推進委員会

今後の進め方（案）

正副委員長ミーティングによる議論を踏まえ、今後の進め方に関する内容を検討した。

１．正副委員長ミーティングによる主な検討内容と課題の整理

1)開催日時：２００３年１２月４日(木)16:00～18:00

2)会　　場：ＪＩＬＳ会議室

3)メンバー：委員長　：(株)日通総合研究所　山本　明弘　　(敬称略)
副委員長：味の素(株)　魚住　和宏
〃　：(株)日立物流　軽部　熊次郎

4)議　　事：(1)問題抽出アンケート結果について
(2)活動の方針・目標・計画について
(3)今後のスケジュールについて
(4)その他

5)主な検討内容と課題

(1)本委員会に関する検討内容と課題

①大気汚染問題は自動車等の単体規制に関連する部分が強いため、本委員会の活動範囲としては、輸配送効率化の視点で取組むべきである。また、アイドリングストップや低公害車については、別枠で扱うことが望ましい。

②本委員会の中心テーマとしては、複数企業間における省資源包装、省エネルギー輸送、特に特にモーダルシフト、共同物流、ユニットロードやパレチゼーション等の問題に焦点を当て、活動していきたい。

③スタート段階としては、各社の環境活動の事例を収集し、事例集を作成したい。
その際、活動の範囲やモードについて明確に分かるようなアンケートフォームを作成し、委員メンバーにアンケートを行った方が良い。

④アンケート結果から大きな課題として、荷主企業と物流企業間の物流サービス等の取引条件是正が挙げられている。荷主企業、物流企業の双方のコミュニケーションを図り、環境負荷を低減するためのガイドラインが必要である。

⑤委員会メンバーも多いため、運営方法としてはテーマ別等による分科会を構成したい。

(2)各委員会にも関連する検討内容と課題

①アンケート結果の問題点にもあるように、共同物流を進めようとすると、独占禁止法の問題にあたり、活動が制約されるケースがあるため、現状を調査したうえで、関係省庁に提言を行う必要がある。

２．今後の委員会の進め方について

1)方針

省資源・省エネルギーの視点から、サプライチェーンを構成する各企業が一体となって物流の環境負荷を低減するモーダルシフトや共同物流等の活動促進を図るため、物流活動の事例収集を行い、関係者間の情報交換と公開と関係者に対する提案を行う。

2)アウトプットイメージ

(1)企業(間)の各種物流施策の事例集の作成

①省資源包装　※輸送上の包装保護と緩衝

②省エネルギー輸送

・モーダルシフト　・共同輸送　・ユニットロード、パレチゼーション　・その他

(2) ガイドラインの作成

＊複数企業間、業際間の各種物流施策に対する課題の整理

＊省資源ロジスティクスを推進するための方針のまとめ

＊輸送モード別のシミュレーションの作成　（コスト・時間に環境のパラメータを加える）

(3)提言の作成

①行政　②産業界　③消費者　④その他

※各委員会の提言内容は、企画運営委員会にて集約し、まとめる。

(4)その他

3)目標

(1)企業(間)の各種物流施策の事例集の作成・・・２００４年１０月

(2) ガイドラインの作成　・・・２００５年１０月

(3) 提言の作成　・・・２００５年１２月

4)活動のステップ

(1)メンバー間の問題点・課題の共有

※問題抽出アンケート結果

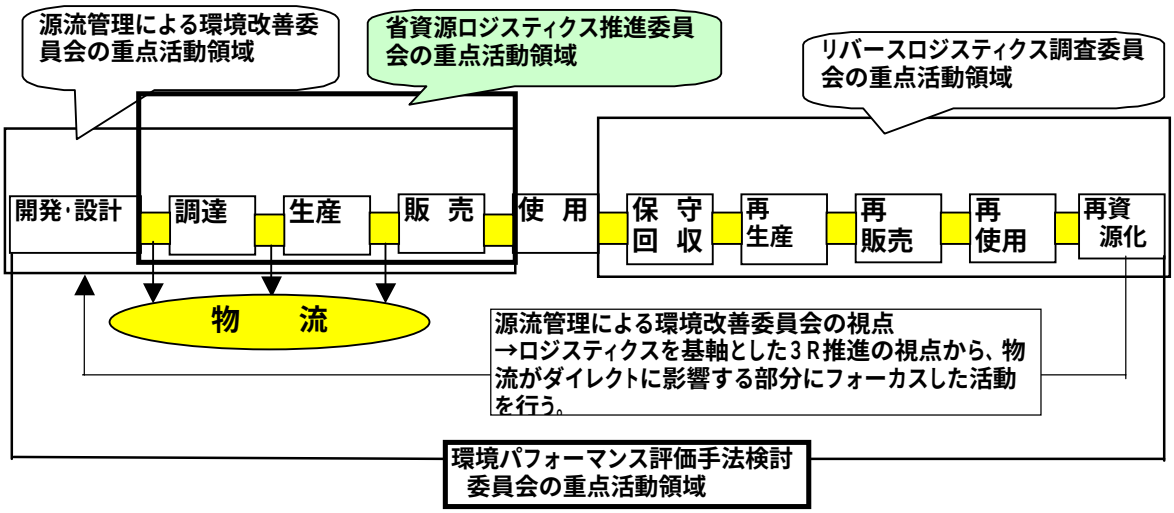
(2)省資源ロジスティクス推進委員会の活動範囲の検討と合意形成

※本委員会における源流管理による環境改善委員会との棲み分け

省資源ロジスティクス推進委員会・・・・複数企業間、業際間主体の活動

源流管理による環境改善委員会・・・・・個別企業主体(荷主企業・物流企業)の活動

(3)目標検討および合意形成



５．スケジュール

	2003年			2004年		
	11月	12月	1月	2月	3月	4月
１．本会議	第1回 11/13					第2回 4/下旬
２．企画運営委員会	第1回 11/13		第2回 1/9(金) 15-17時			
３．正副委員長ミーティング		第1回 12/4(木) 16-18時	第2回 1/15(木) 16-18時			
４．省資源ロジスティクス 推進委員会			第1回 1/26(月) 14-17時	第2回 2/下旬	第3回 3/下旬	
1)方針・目標・活動計画			←	―	→	
2)事例の収集と分析	※2004年度				→	→
3)事例集の作成と公開	※2004～2005年度					
4)ガイドラインの作成と公開	※2004～2005年度					

以　上

資料５－４

リバースロジスティクス調査委員会
今後の進め方（案）

正副委員長ミーティングによる議論を踏まえ、今後の進め方に関する内容を検討した。

１．正副委員長ミーティングによる主な検討内容と課題の整理

1)開催日時：２００３年１２月３日(水)17:00～19:00

2)会　　場：ＪＩＬＳ会議室

3)メンバー：委員長　：リコーロジスティクス(株)　菅田　勝　　(敬称略)
副委員長：日本通運(株)　麦田　耕治
〃　　：富士通(株)　　新村　弘之

4)議　　事：(1)問題抽出アンケート結果について
(2)活動の方針・目標・計画について
(3)今後のスケジュールについて
(4)その他

5)主な検討内容と課題

(1) 本委員会に関する検討内容と課題

①家電、ＯＡ・情報機器、食品など参加メンバーの業種を勘案し、消費財系の製品の取組み・共同化事例の収集と報告を中心に行いたい。但し、特殊な工場廃棄物や化学系廃棄物等は対象外としたい。

②廃棄物は複雑な問題が絡んでいるため、再資源化が可能な製品等にフォーカスしたい。

③問題抽出アンケートの結果を踏まえたうえで、各社の問題点・課題のヒアリング等を行い、調査テーマ、内容を検討したい。

④各社のリユース、リサイクル活動等の情報を収集、調査し、共有化できるようにしたい。

⑤不法投棄を抑制するため、優良処分事業者の格付けが検討されている。
※環境省が許可を出している事業者でも不法投棄していた例もある
将来的には、リユース・リサイクルを行っている企業の情報を共有化できるようにしたい。

⑥廃棄物等の行政、自治体の許認可手続き等にばらつきがあり、各企業では大変な労力をかけているため、環境会議として関係者に提言する必要がある。

⑦リバースの領域は、未成熟なため、各社の適切な活動の参考、指針となるようなガイドラインを作成したい。

(2)各委員会にも関連する検討内容と課題

①共同物流を進めようとすると、廃棄物処理法や独占禁止法等の問題にあたり、活動が制約されるケースがあるため、現状を調査したうえで、関係省庁に提言を行うべきである。

２．今後の委員会の進め方について

1)方針

ロジスティクスの視点から、今後本格的に必要とされるリユース、リサイクルに関わる物流のあるべき姿を描くために調査活動を行い、その結果を公開する。また、消費者における還流管理の促進を含め、リバースロジスティクスの構築が可能となる環境整備を促進するため、関係者に対して提案を行う。

2)アウトプットイメージ

(1)調査報告書の作成

【調査テーマ例】

①家電、PC、OA 機器　※特殊な工場廃棄物や化学系廃棄物等は対象外とする。

②自動車　③建設資材　④食品　⑤その他

(2)ガイドラインの作成

(3)提言の作成

①行政　②産業界　③消費者　④その他

3)目標

(1)調査報告書の作成　・・・２００５年　３月

(2)ガイドラインの作成　・・・２００５年１０月

(3)提言の作成　・・・２００５年１２月

※各委員会の提言内容は、企画運営委員会にて集約し、まとめる。

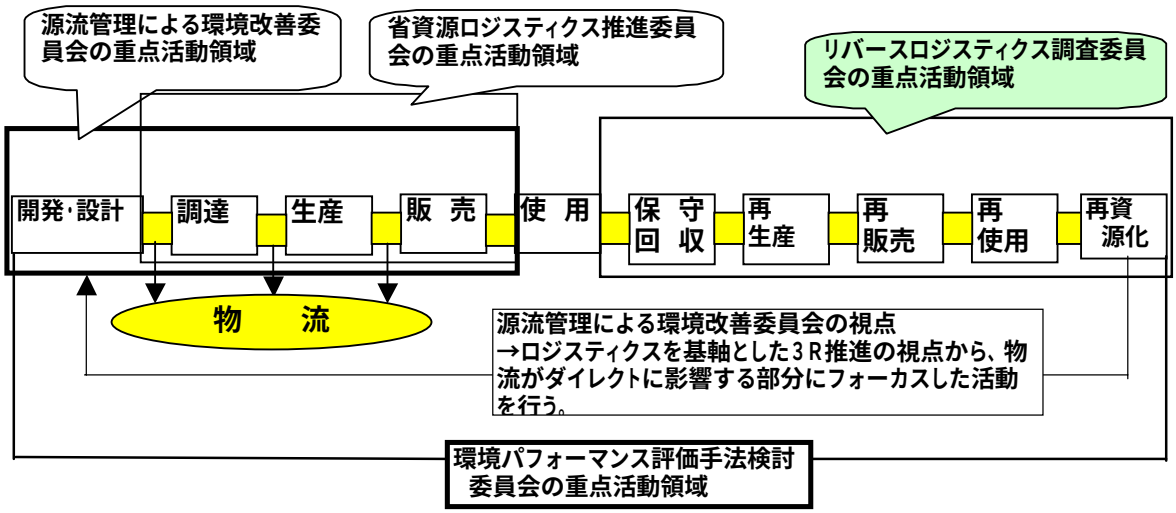
4)活動のステップ

(1)メンバー間の問題点・課題の共有

※問題抽出アンケート結果

(2)リバースロジスティクスの定義と範囲の検討および合意形成

(3)目標検討および合意形成



５．スケジュール

	2003年			2004年		
	11月	12月	1月	2月	3月	4月
１．本会議	第1回 11/13					第2回 4/下旬
２．企画運営委員会	第1回 11/13		第2回 1/9(金) 15-17時			
３．正副委員長ミーティング		第1回 12/3(水) 17-19時	第2回 1/9(金) 17-19時			
４．リバースロジスティクス 調査委員会			第1回 1/29(木) 14-17時	第2回 2/下旬	第3回 3/下旬	
①方針・目標・活動計画			←	―	→	
②調査企画	※2004年度				→	→
③調査の実施と公開	※2004～2005年度					
④ガイドラインの作成	※2004～2005年度					

以　上

資料５－５

共通基盤整備委員会
今後の進め方(案)

正副委員長ミーティングによる議論を踏まえ、今後の進め方に関する内容を検討した。

１．正副委員長ミーティングによる主な検討内容と課題の整理

1) 開催日時：２００３年１１月２８日(金)10:00～12:00(第１回)
２００３年１２月２５日(木)15:00～17:00(第２回)

2)会　　場：ＪＩＬＳ会議室

3)メンバー：委員長　：諏訪東京理科大学　　津久井 英喜　　(敬称略)
副委員長：東芝物流(株)　　堀口　英雄
〃　　：(株)日本総合研究所　下村　博史
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ：文化女子大学　　鈴木　邦成
※第２回目より、鈴木委員(文化女子大学)にｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰとしてご参加いただいた。津久井委員長と用語作成に関わられ、海外の事情にも精通されているため、今後も正副委員長ミーティングのメンバーとしてご参画いただくこととなった。
※第２回目の打合せにあたり、今後の委員会活動の参考とするため、日本総合研究所が行っている、コンソーシアムの話しを伺った。

4)議　　事：(1)問題抽出アンケート結果について
(2)活動の方針・目標・計画について
(3)今後のスケジュールについて
(4)その他

5)主な検討内容と課題

(1)本委員会に関する検討内容と課題

①物流関係は環境問題への対応が遅れているのが現状である。この遅れを取り戻すためにも、各委員会での具体的なアウトプットを広く関係者に公開し、普及啓発することが必要である。

②本委員会では各委員会、各企業から求められる情報を整理、提供すると同時に、環境会議の成果としても残るものにしたい。

③各委員会のアウトプットや各企業、団体、コンソーシアムの動向や物流の環境活動に関わる最新の技術情報が得られるような勉強会や大会、フォーラムを開催すべきである。

④環境に関する文献情報、企業の環境報告書の収集は早急に行うべきである。

(2)各委員会にも関連する検討内容と課題

①時代の流れは、環境対応からＣＳＲ(Corporate Social Responsibility)へと向かっている。環境会議もＣＳＲを視野に入れながら、活動を行うべきではないか。

②環境会議から情報発進するものは、電子メールやインターネット、ホームページ等を最大限に活用すべきである。

③物流、ロジスティクスの視点から、環境報告書をどのようなに記載をすればよいか、ガイドライン等を作成し、推奨例を提示するべきではないか。

２．今後の委員会の進め方について

1)方針

環境会議及び各委員会の円滑かつ効果的な活動を支える共通的な『情報資源』を整備し、アウトプットは原則全て公開する。

2)アウトプットイメージ

(1)環境に関する用語集の作成と公開（物流・ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽの視点から見た環境用語集）

(2)企業の環境報告書の収集と公開（ホームページ・印刷物）

(3) 行政、自治体産業界、学界、団体の情報収集と公開

①行政、自治体の法制度や規制値、条例、目標値および各種インセンティブ等

②企業の環境報告書

③学界、団体、大学、自治体の研究

④環境に関する書籍

※先端技術等の動向を把握し、委員会横断的なセミナーや勉強会を開催する。

(4)環境に関する国際動向の収集と公開

(5)企業の環境報告書に対するガイドラインの作成

※物流、ロジスティクスの視点から、どのような記載をすれば良いか、推奨例を提示。

※各委員会との調整を図る。

(6)行政、自治体の法制度や規制値、条例、目標値および各種インセンティブ等の整理と公開

(7)上記に関わる問題点の洗い出しおよび提案の作成と公開

3)目標

(1)環境に関する用語集の作成と公開・・・2004 年４月より適宜公開

(2)企業の環境報告書の収集と公開（データ・ペーパー）・・・2004 年５月

※環境会議メンバー、その後 JILS 会員企業

(3) 行政、産業界、学界、団体、自治体の情報収集と公開・・・2004 年７月より適宜公開

※先端技術等の動向を把握し、委員会横断的な勉強会を開催する。

(4) 環境に関する国際動向の収集と公開・・・適宜実施

(5)企業の環境報告書に対するガイドラインの作成・・・2005 年７月

(6)行政、自治体の法制度や規制値、条例、目標値および各種インセンティブ等の整理と公開・・・2005 年１２月

4)活動のステップ

(1)メンバー間の問題点・課題の共有と方針、目標の合意形成

※問題抽出アンケート結果

(2) 活動テーマの検討と合意形成

５．スケジュール

	2003年			2004年		
	11月	12月	1月	2月	3月	4月
１．本会議	第1回 11/13					第2回 4/下旬
２．企画運営委員会	第1回 11/13		第2回 1/9(金) 15-17			
３．正副委員長ミーティング	第1回 11/28(金)	第2回 12/25(木)				
４．共通基盤整備委員会				第1回 2/3(火)	第2回 2/中旬	第3回 3/中旬
①方針・目標・活動計画			←→			
②用語集作成					→	→
③その他	※2004～2005年度					

以　上

資料５－６

各委員会の共通課題

１．環境パフォーマンス評価手法検討委員会

1)委員会の中で具体的な議論進めるに当たり、物流活動の業務モデル図が必要であり、他委員会でも共通のツールになるので作成するべきである。

2)環境報告書におけるロジスティクスの項目が不明確である。経営におけるロジスティクスの位置付けが低く見られるため、ロジスティクスの役割が正しく伝わるフォーマットを関係者に提示するべきである。

２．源流管理による環境改善委員会

1)物流マップ（モデル図）があると、議論する際に焦点が明確になるため、作成したい。

2)各委員会の活動が見えるような仕組みが必要であり、気軽に意見を言える環境を整備して欲しい。

3)委員会の人数も多い為、委員会の運営としては、２つの分科会を構成することも必要ではないか。但し、分科会のテーマ、切り口を改めて検討する必要がある。

３．省資源ロジスティクス推進委員会

1)アンケート結果の問題点にもあるように、共同物流を進めようとすると、独占禁止法の問題にあたり、活動が制約されるケースがあるため、現状を調査したうえで、関係省庁に提言を行うべきである。

2)これまで、各省庁で物流に関する様々な施策が行われており、成功しているとは言えないものあるため、その原因調査も行っても良いのではないか。

４．リバースロジスティクス調査委員会

1)共同物流を進めようとすると、廃棄物処理法や独占禁止法等の問題にあたり、活動が制約されるケースがあるため、現状を調査したうえで、関係省庁に提言を行うべきである。

５．共通基盤整備委員会

1)時代の流れは、環境対応からＣＳＲへと向かっている。環境会議もＣＳＲを視野に入れながら、活動を行うべきではないか。

2)環境会議から情報発進するものは、電子メールやＷＥＢを最大限に活用すべきである。

3)物流、ロジスティクスの視点から、環境報告書をどのようなに記載をすればよいか、ガイドライン等を作成し、推奨例を提示するべきではないか。

以　上

別紙

ロジスティクス環境会議　予定表

	2003年度					2004年度			2005年度	
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5～9月	10～3月	4～9月	10～3月
１．本会議	第1回 11/13(木)					第2回 4/下旬		第3回 4/下旬		第4回 3/中旬
２．企画運営委員会	第1回 11/13(木)		第2回 1/9(金)		第3回 3/下旬		第4回 5/下旬			
1)委員長ミーティング				第1回 2/上旬						
2)広報・普及小委員会				第1回 2/上旬						
３．環境パフォーマンス 評価指標検討委員会			第1回 1/23(金)	第2回 2/中旬	第3回 3/中旬					
1)経営指標との関連 2)複数企業間按分モデル					→	→	→	→	→	→
４．源流管理による 環境改善委員会			第1回 1/22(木)	第2回 2/中旬	第3回 3/中旬					
1)マニュアル　ver1 2)マニュアル　ver2					→	→	→	→	→	→
５．省資源ロジスティクス 推進委員会			第1回 1/26(月)	第2回 2/下旬	第3回 3/下旬					
1)事例集 2)ガイドライン					→	→	→	→	→	→
６．リバースロジスティクス 調査委員会			第1回 1/29(木)	第2回 2/下旬	第3回 3/下旬					
1)調査報告書 2)ガイドライン					→	→	→	→	→	→
７．共通基盤整備委員会			第1回 2/3(火)	第2回 2/中旬	第3回 3/中旬					

※2004年4月以降、各委員会は２ヶ月に１回程度の頻度で開催する。